

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○1月19日～

衆議院の解散総選挙の日程は、投開票が2月8日を軸に調整中です。

年明けから解散報道を巡って日経平均が爆上げ状態となっています。

5万4500円を超える動きも見られ、5万5000円に手が届くところまでできています。

今年は6万円を超えていくという声もありますが昨年4月の暴落から調整らしい動きがほとんどないため株高がどこまで続くのか不安な面もあります。

高市首相は19日に記者会見を開くということで政治関連のニュースにも注目していきたいです。

また、金や銀などの貴金属類の上昇も今年さらに加速していくのか気になります。

為替市場は今のところドル/円が160円を目指す勢いもなく、高値圏で膠着した動きとなってきました。

介入を警戒する声もあり、円安にややブレーキがかかっています。

ただし、円安トレンドが継続しているので、円高に振れればドルを買う動きが出やすいと考えた方がよさそうです。

気になるのが年明けから悪化している地政学リスクです。

中東の情勢も緊迫しています。国連安全保障理事会は15日、反体制派による抗議デモが続くイラン情勢についての緊急会合を開きました。

トランプ大統領は武力行使も視野に入れているようで、カタールやサウジアラビアなど周辺国でも警戒が強まっています。トランプ大統領は少し態度を軟化しましたが今後の動きが心配です。

そして、今週は日銀金融政策決定会合があります。

円安進行は日本だけでなく米国にとっても好ましくない動きです。

米国のベッセント財務長官が為替の過度な変動について懸念を表明したこともあり、米国側の動きにも注目したいです。

先週はトランプ関税について米最高裁判所の訴訟判決は見送られましたが裁判の行方も気になります。違憲となった場合はマーケットにも影響が出そうです。

さらに、パウエル議長がFRBの改修工事を巡って刑事捜査の対象となったことで、トランプ政権との対決姿勢がより鮮明になってきました。

FRB議長の後任人事を巡っての報道などにも注目したいです。

欧州はグリーンランドを巡る米国との対立が深まっているため、ユーロにとっては上値を抑える原因になりそうです。

19日は、米国はキング牧師記念日で祝日です。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週は 159 円台半ばまで円安が進んだ後は少し円高に動き、158 円あたりでマーケットは終わっています。

今まで抵抗となっていた 158 円を超えてきたことで、円安トレンドが継続中です。

上値は159.5円を超えると160円台が視野に入ってきます。

161円台では売り圧力も強まりそうなため160円超では上値が重くなっていくかもしれません。

下値は157.8円を割り込むと156.8円あたりまで下がる可能性があります。

ここも割り込むと、今年の安値156円あたりが意識されます。

<気になるクロス円>

クロス円も先週後半は下げているペアが多く、週明けからの動きに注目です。

ユーロ、ポンド、スイスフランなどの欧州通貨は週足でも陰線で終わっているため上値が重くなっていく可能性があります。

年明けから堅調な動きの株価が下がってくれば、リスク回避からクロス円も売られやすくなるので株価動向にも注意したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では11月機械受注、12月貿易統計、日銀金融政策決定会合(政策金利発表)、日銀展望レポート、12月全国消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では12月住宅販売保留指数、12月景気先行指標総合指数、前週分新規失業保険申請件数、7-9月期GDP(改定値)、11月個人消費支出(PCEデフレーター)、1月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、1月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで1月ZEW景況感調査、1月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏で12月消費者物価指数、ラガルド・ECB総裁発言、ECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨などがあります。

ほかには、中国で10-12月期GDP、カナダと英国で12月消費者物価指数、トルコで政策金利発表などがあります。